

【 B 量と測定 教材の系統表 】

| 学年 | | 1 年 | | | |
|------------|---------|--|--|--|---|
| 学期 | | 1 学期 | 2 学期 | | 3 学期 |
| 単元 | | なんじ なんじはん | どちらがながい | どちらがおおい | どちらがひろい |
| ねらい | | 時刻に関心をもち、時計から何時、何時半の時刻を読めるようにし、日常生活に生かすことができるようにする。 | 長さの比較などの活動を通して、長さや測定についての理解の基礎となる経験や、長さについての感覚を豊かにする。 | 体積の比較などの活動を通して、体積とその測定についての理解の基礎となる経験や、体積についての感覚を豊かにする。 | 面積の比較などの活動を通して、面積の概念や測定についての理解の基礎となる経験や面積についての感覚を豊かにする。 |
| 学ばせたいこと | 中心となる考え | ○時計は短い針から読む。 ○長い針が12の時は「何時」という。 ○長い針が6の時は「何時半」という。 ○短い針が数と数の間の時は、小さい方の数を読む。 | ○端を揃えてまっすぐに伸ばして長さを比べる(直接比較) ○他の物に長さを写し取って長さを比べる。(間接比較) ○ある物を単位としてそのいくつ分かで長さを比べる。(任意単位) | ○身の回りにあるものの体積を直接比較・間接比較して体積の多少を比べる。 ○身の回りにあるものの体積を任意単位で比較する。 | ○面積を直接比較で比べる。 ○ますの数で面積を比較する。 |
| | 用語 | 何時、何時半 | | | 何時何分 |
| 関連教材 | | 1年 「なんじなんぶん」 2年 「時ごとと時間」 3年 「時ごとと時間のもめ方」 | 1年 「どちらがながい」 2年 「どちらがひろい」 2年 「長さのたんい」 | 1年 「どちらがおおい」 2年 「長さのたんい」 2年 「水のかさのたんい」 2年 「長いものの長さのたんい」 | 2年 「時ごとと時間」 3年 「時ごとと時間のもめ方」 |
| 意識させるキーワード | | ○何時、何時半 ○長い針、短い針 ○短い針は何時 | ○はしをそろえる ○まっすぐにのばして ○おって ○テープにうつして ○いくつ分 ○長い、短い | ○あふれる ○高さを比べる ○大きさを比べる ○いくつ分 ○多い、少ない | ○はしをそろえる ○かさねる ○いくつ分 ○広い、狭い |
| 筋道を立てて説明する | | 時計を見て時刻を読み、時計を使って説明することができる。 | ものの長さを比べ、具体物を使って、考えやわけを説明することができる。 | 直接比較や間接比較、任意単位による測定を通して体積を比べ、具体物を操作しながら考えやわけを説明することができる。 | 広さを比べる方法を考え、面積を比較し、具体物を操作しながら考えやわけを説明することができる。 |
| まろごと活用 | | | 長さ比べ大会 (様々な持ち物の長さを比較する) | かさ比べ大会 (水筒に入る水のかさを比較する) | 広さ比べ大会 (ハンカチの面積を比較する) |
| その他 | | | | | |

【 C 図形 教材の系統表 】

| 学年 | | 1 年 | |
|------------|---------|--|---|
| 学期 | | 2 学期 | 3 学期 |
| 単元 | | かたちあそび | かたちづくり |
| ねらい | | 身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形についての理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。 | 身の回りにあるものの形を観察したり構成したりするなどの活動を通して、平面図形について理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。 |
| 学ばせたいこと | 中心となる考え | ○身の回りの具体物の外形をとらえ、形を抽象し概形や機能、特徴から分類する。 ○立体図形を構成する面の形に着目する。 | ○図形の合成、分解、回転移動、対称移動、平行移動。 ○形の合成、分解、共通性。 ○中詰図形・中空図形の輪郭(直線や頂点)に着目し、同じ図形であるにとらえる。 |
| | 用語 | | |
| 関連教材 | | 1年 「かたちづくり」 2年 「三角形と四角形」 「はこの形」 3年 「円と球」 「三角形」 | 2年 「三角形と四角形」 「はこの形」 3年 「円と球」 「三角形」 |
| 意識させるキーワード | | ○しかく、さんかく、まる ○～のかたち | ○合体、わけっこ、回す、裏返す、ずらす ○四角、三角、長四角、真四角 |
| 筋道を立てて説明する | | 身の回りの具体物から形を抽象し、立体図形の特徴をとらえて仲間分けをし、具体物を使って説明することができる。 立体図形の面を写し取って絵を描き、できた絵について具体物を使って説明することができる。 | 図形の輪郭に着目して合成されている基本図形を見つけ、絵や具体物を使って説明することができる。 三角や四角の角の数について気がついたことを、挿絵を使って説明することができる。 |
| まろごと活用 | | | |
| その他 | | | |

【 D 数量関係 教材の系統表 】

| 学年 | | 1 年 | |
|------------|---------|--|--|
| 学期 | | 1 学期 | 3 学期 |
| 単元 | | はなはなんこさいたかな | ずをつかつてかんがえよう |
| ねらい | | ものの個数を絵や図などを用いて表したり、読み取ったりすることができるようにする。 | 順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面についても加減計算が適用できることを理解し、それを用いることができるようにする。 |
| 学ばせたいこと | 中心となる考え | ○目的に応じた集合をつくって数を調べる。 ○ばらばらに示されたものを整理して並べると、大きさが比べやすくなる。 | ○場面を図に表して問題の構造をとらえる。 ○図を基にして、式を読む。 |
| | 用語 | | |
| 関連教材 | | 2年 「ひょうとグラフ」 3年 「ぼうグラフと表」 | 1年 「のこりはいくつちがいはいくつ」 2年 「たし算とひき算」 |
| 意識させるキーワード | | ○まっすぐ並べる ○スタートは同じ ○同じ大きさ | ○おはじきで ○丸図で ○図に描いて |
| 筋道を立てて説明する | | 条件や観点を決めてものの個数を数え、それを整理した絵を使って条件に応じた集合の要素の数や表現の特徴について説明する。 | 順序数や異種の数量を含む加減計算、求大求小の場面での加減計算について、半具体物や図を使って説明する。 |
| まろごと活用 | | 生活科の学習で育てた野菜の数を調べて記録し、整理する。 | |
| その他 | | | |